

●書学書道史学会

## 会 報

第 35 号

平成30年(2018) 5月15日

編集・発行  
書学書道史学会  
会 報 委 員

〒100-0003

東京都千代田区一ツ橋1-1-1

パレスサイドビル9F

(株)毎日学術フォーラム内

TEL : (03) 6267-4550

FAX : (03) 6267-4555

メールアドレス:

maf-syogaku@mynavi.jp

## 理事長就任にあたって

中村 伸夫

この四月から二年間、澤田雅弘氏の後をつぎ、本学会の理事長として仕事をする事になりました。重責への不安は募るばかりですが、会員諸氏の協力を得ながら、微力を尽くしたいと思っております。

本学会の創設準備の会合で、いわゆる若手の一人として、先輩の諸先生方にお会いしたのは、今から三十年前のことです。議論に加わりながら、まともな意見を何一つ言えず、みじめな思いをしたことを覚えています。とにかく、私の場合、この時から本学会とのかかわりが始まりました。



創設のための集まりで意見を言えなかつたのは、勇氣に乏しい私自身の性格にもよります。しかし、そのことは別に、諸先生方のおそろしいまでの真剣な議論の様子に圧倒されたからでもあります。伊藤伸、大庭脩、萱原晋、木下政雄、興膳宏、杉村邦

彦、西林昭一、松丸道雄の八名の先生方による真剣勝負は、延々とつづいて夜おそくにまで及び、翌日も再開されたことを、後になって聞き及びました。

現在、本学会のホームページに掲げられている会則は、これまでに何度かの見直しが行われています。しかし、骨格は創設時に作られたもので、三十年前の白熱した議論の結晶だといえます。「書学書道史とこれに関連する研究の発展向上、国際交流の促進を図ること」という目的を掲げ、達成のための事業、遂行のための推進部局など、組織を運営するための各種の規定が定められています。

初代理事長となられた西林昭一先生、今は亡き青山杉雨先生をはじめとする諸先生方が、東京・虎ノ門の国立教育会館に集結し、発会式が行われたのは平成二年一月のことでした。そして、同年四月に本学会が正式に発足しました。東京大学で第一回大会が開催されたのは同年十一月のことです。それ以来、本学会は設立の趣旨をふまえて、小規模ながらも、書にかかわる学術の進展をめざした学会として、着々と歩みを重ねてきました。平成十二年の国際大会(いわゆる二〇〇〇年大会)の開催をきっかけとして、海外にも広く知られる組織になっていきます。

すでに組織としての土台は盤石であり、今はただ更なる発展向上のために、会員の力を結集して、より高水準の活動を実現することが、課題として与えられています。年間の各種事業をより充実した内容にすることはもちろんのこと、若手研究者の育成や低調ぎみの海外の研究者との交流促進、そして、一般社会や書道界に対する貢献という視点にも目をそらさない活動が求められているように思います。

本学会のもっとも大きな事業は、公開による大会の開催です。本年は岐阜女子大学のご協力を得て、第二十九回大会を文化情報研究センターで開催することになっています。また、一年半後には、大きな節目となる第三十回大会の開催が予定されています。この大会にむけた特別企画の立案も急ぐ必要があります。当面の課題は少なくともはありません。会員諸氏の協力とご支援を切に願います。次第です。

(理事長)

第29回 書学書道史学会大会開催のお知らせ

国内局

今年度の書学書道史学会大会は、10月27日(土)・28日(日)の両日にわたり、岐阜女子大学文化情報研究センターにおいて開催を予定しております。詳細および参加申込については、8月下旬に「大会のしおり」として研究発表のレジュメとともに「案内を差し上げます。また、HPでもお知らせいたします。現時点での概要は以下の通りです(この後、一部変更がある場合もございますので予めご了承ください)。

みなさま、多数のご参加をお待ちしております。

○理事会

【10月27日(土)】11時00分

岐阜女子大学文化情報研究センター

(杉山ビル6階小会議室)

○大会

【10月27日(土)】

12時00分

受付開始

岐阜女子大学文化情報研究センター

(杉山ビル6階大会議室)

13時00分

14時00分

14時00分

15時00分

17時00分

「研究推進のためのクロストーク(仮懇親会

(於…岐阜キャッスルイン(予定)

【10月28日(日)】

9時00分

受付開始

岐阜女子大学文化情報研究センター

(杉山ビル6階大会議室)

9時30分

11時45分

11時45分

13時00分

14時30分

16時20分

16時10分

16時20分

閉会式

富谷至氏(元京都大学人文科学研究所教授)「中国における書芸術の誕生」

○会場へのアクセス

JR名古屋駅よりJR岐阜駅まで快速列車で約20分 または名鉄名古屋駅より名鉄岐阜駅まで約30分

(徒歩 約20分)

JR岐阜駅から金華橋通りを北(約1500メートル) (岐阜バス 約10分)

JR岐阜バスターミナル、または名鉄岐阜バスのりばから 金華橋方面もしくは長良橋方面行きバスに乗車

(1)「金華橋方面」行きは「市庁舎西口」下車徒歩約1分 (2)「長良橋方面」行きは「市役所南庁舎」下車徒歩約3分

・車の方は「杉山町駐車場」をご利用ください。(徒歩2分)

TEL 058-2646133

○宿泊施設について

役員、会員ともに、各自で手配願います。

〈お問い合わせ〉

岐阜女子大学

中根安治(海童)(中根研究室)

TEL 058-2229-2211

メールアドレス kaido@sjoda.ac.jp

\*\*\*\*\* ◎非会員の大会参加について \*\*\*\*\* 第27回大会より、会員が引率する非会員の

大会参加費は1名無料となります。



## 第29回 書学書道史学会大会研究発表者募集要項

国内局

今年度の「書学書道史学会大会」は、岐阜女子大学（文化情報研究センター／岐阜市明徳町10）において、前掲のとおり開催いたします。会員各位、日頃の研究成果について、意欲的かつ積極的な発表を期待し、左記の要領で募集いたします。

## 記

①発表日時：平成30年10月27日（土）、28日（日）

②発表時間：各30分（発表20分、質疑応答10分）

③申込方法：電子メールにてお申し込みください。件名には必ず「書学書道史学会大会発表申込（氏名）」と明記し、「所属・氏名・連絡先」を記した上で、発表内容の題目と、発表内容の要旨をレジュメ800字程度にまとめて添付してください。

④レジュメ：原則としてワープロ（テキスト形式・ワード

形式のいずれか）で作成し、電子メールに添付し送信してください。

⑤発表申込締切：平成30年6月28日（木）必着

⑥発表者の決定と連絡：大会での発表者は常任理事会で7月中旬に協議・決定し、採否を個別にご連絡します。

⑦8月下旬に「大会のしおり（含レジュメ集）」を全会員へ配布します。また、ホームページ上でも公開します。

## ※注記

・大会の発表者については、学会誌『書学書道史研究』第29号（平成31年度秋刊行予定）への論文投稿申込があったものとして扱われます。改めて学会誌への投稿申込を行う必要はありません。

・学会誌への論文投稿締切は、平成31年3月31日となっております。投稿後、原稿掲載の採否は査読委員会において

## 事務局よりお願い

## ◆年会費について

本号に年会費納入用の郵便振替用紙が同封されています。年会費納入は、6月末日までに「ご納入ください。なお、平成30年3月現在、会費を滞納している方には、本年度分に滞納年度分を加算した金額が記載されております。速やかに全額をご納入ください。また、3年以上滞納の方は、すでに導入されている「長期会費滞納者の自動退会（除籍）制」の適用対象となります。ただし、退会（除籍）適用対象者となった場合であっても、退会届提出の年度分までの合算額における学会費の請求権は消滅しません。本件に関して、会員台帳別表にて管理の上、適宜納入請求を続けることが総会にて決定されていますので、予めご了承ください。

## ◆学生会員の「会員変更手続き」について

本学会では、学生会員の「有期会員制」を導入しています。この制度は学生会員（学生会費適用の方）が大学院を修了、または満期退学・中途退学、その他の理由により学籍を失った時（学生証の発給対象でなくなった時）に、「学生会員資格終了」とするものです。該当の方で、引き続き一般会員として留まる場合、必ず会員変更手続き（「会員変更申込書」の提出）が必要で、とりわけ、今春に学生会員資格を失った方は、至急手続きをお願いします。「会員変更申込書」は、学会ホームページからダウンロードできます。会員変更手続きにより、自動的に一般会員資格が付与されます。なお、「会員変更申込書」下の「紹介会員氏名」「役員推薦氏名」「理事会承認」各欄は、無記入で結

て決定されます。

・このほか学会誌関連での「不明な点は、移転後の新たな事務局である、毎日学術フォーラム内「書学書道史学会編集局」宛にて、電子メールでお問い合わせください。

## 〈発表申込先／問い合わせ先〉

（新）【書学書道史学会事務局】

T100-0003

東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル9F

（株）毎日学術フォーラム内「書学書道史学会」

TEL:03-6267-4550

FAX:03-6267-4550

メールアドレス ma@syogaku@mynavi.jp

## 事務局

構です。

「会員変更手続き」を含め、その他の問合せや書類送付先は、本会報一面の事務局（株毎日学術フォーラム内）  
E-MAIL: ma@syogaku@mynavi.jp) へお願いします。

## 〈会員名簿の訂正や情報提供のお願い〉

昨年度、会員名簿が発行されました。会員各位の諸項目の加筆修正やご知友の会員の情報提供をお願いします。その他の問合せや情報提供は、本会報一面の事務局（株毎日学術フォーラム内）E-MAIL: ma@syogaku@mynavi.jp) へお願いします。

第15期役員選挙のご報告

選挙管理委員会

本学会選挙管理委員会は、第14期役員任期満了にと  
もない、選挙管理規定に基づいて平成30年2月21日を投  
票締切日と定め、郵送による第14期役員選挙を実施しま  
した。

の分掌、諮問委員、選挙管理委員会委員を以下の通り決  
定し、第15期役員会等が発足しました。今期の役員・幹事  
・諮問委員・選挙管理委員の任期は、平成30年4月1日か  
ら平成32年3月31日までです。(※は新任)

開票作業は2月23日、杉浦妙子選挙管理委員長指示の  
もと、選挙管理委員により、事務局のある毎日学術フォー  
ラム会議室において実施されました。投票状況については、  
投票有権者数55票のうち、有効投票数70票・投票率14  
%、(平成28年度：80票・投票率15%、平成26年度：88票  
・投票率21%、平成24年：65票、平成22年：47票、平成20  
年：61票、平成18年：92票)でした。開票結果を受け、同規  
程第6条により、以下の通り選挙選出理事10名、監事2  
名を当選者として確定しました。選挙選出理事10名、監  
事2名を選出。但し、当選理事の横田恭三氏、小川博章  
氏の辞退により、高城弘一氏、萱のり子氏が繰り上げ当  
選となりました。投票結果は以下の通りです。

《役員》

【理事長】  
※中村伸夫 筑波大学教授

【副理事長】  
河内利治(大東文化大学教授) 研究局長

【常任理事】  
※富田 淳(東京国立博物館学芸企画部長) 国際局長

※菅嶋忠幸(出光美術館学芸課長 出光佐三記念美術館  
次長) 国内局長

高城弘一(大東文化大学教授) 事務局長

森岡 隆(筑波大学教授) 学術局長

菅野智明(筑波大学教授) 編集局長

萱のり子(東京学芸大学教授)

高橋利郎(大東文化大学教授) 副編集局長

大野修作(近畿漢詩連盟) 副国際局長

小川博章(淑徳大学教授) 副事務局長・会報編集委員会副委員長

下野健児(花園大学教授) 副国内局長

鈴木晴彦(日本大学教授) 副学術局長

永由徳夫(群馬大学教授) 副研究局長

※鍋島稲子(台東区立書道博物館主任) 副国内局長

※橋本貴朗(國學院大学准教授) 副編集局長

福田哲之(島根大学教授) 副研究局長

【監事】

柿木原くみ(前相模女子大学教授)

杉浦妙子(二松学舎大学講師)

《幹事》(各局五十音順)

国内局：川畑 薫 丸山猶計 山口恭子

国際局：佐々木佑記 ※六人部克典(前編集局幹事)

研究局：権田瞬一 角田健一

学術局：尾川明穂 高橋佑太

編集局：増田知之 成田健太郎 ※柳田さやか

事務局：金子 馨 亀田絵里香 田村南海子

野中直之 藤森大雅

《諮問委員》(五十音順)

安達直哉 荒金信治 大西克也 ※大橋修一

押木秀樹 小松靖彦 ※澤田雅弘 神野雄二

高木厚人 ※名児耶明 信廣友江 萩 信雄

宮崎洋一

《選挙管理委員会》(各五十音順)

委員長 杉浦妙子

委員 ※小川博章

委員 亀澤孝幸

委員 野中直之

委員 高城弘一

委員 永由徳夫

委員 (以上、理事・監事枠より4名)

委員 (以上、会員枠より2名)

◆第15期役員・幹事・諮問委員・選挙管理委員

第15期役員選挙の開票、当選者決定を受け、平成30年  
3月11日に選挙選出理事による緊急会議を開催し、理事  
長の互選と理事長指名理事10名を選出しました。この時  
点で、澤田雅弘氏が常任理事を辞退しました。これに続き  
3月21日に開催された臨時理事会において、各事業部局

《選挙選出理事》(五十音順)  
菅嶋忠幸、萱のり子、河内利治、菅野智明、  
澤田雅弘、高城弘一、高橋利郎、富田 淳、  
中村伸夫、森岡 隆  
《監事》(五十音順)  
柿木原くみ、杉浦妙子

【理事】  
大野修作(近畿漢詩連盟) 副国際局長  
小川博章(淑徳大学教授) 副事務局長・会報編集委員会副委員長  
下野健児(花園大学教授) 副国内局長  
鈴木晴彦(日本大学教授) 副学術局長  
永由徳夫(群馬大学教授) 副研究局長  
※鍋島稲子(台東区立書道博物館主任) 副国内局長  
※橋本貴朗(國學院大学准教授) 副編集局長  
福田哲之(島根大学教授) 副研究局長

【監事】  
柿木原くみ(前相模女子大学教授)  
杉浦妙子(二松学舎大学講師)



## 各局報告

## 国内局

別項にてご案内いたしました通り、本年度の大会は岐阜女子大学（文化情報研究センター）／JR岐阜駅より徒歩またはバス／岐阜市明徳町10）を会場として使わせていただけることとなりました。担当窓口を中根安治先生にお願いし、同大学の皆様、また関係会員よりご協力、ご支援をいただきつつ準備を進めております。会員各位におかれましては、ご多忙の時期と存じますが、意欲的なご発表ならびに多数のご参加をお待ちしております。

（国内局長 笠嶋 忠幸）

## 国際局

昨今の中国における書の研究は、論文や著作の出版を見ても実に目覚ましいものがあります。充実した展覧会や、最新の研究成果が示されるシンポジウム等からも、目を離せません。国際局では昨年を引き続き、中国大陸・台湾・韓国・アメリカなどの博物館や美術館で開催される書画に関する展覧会を中心に、さまざまな情報をご案内いたします。また外国からの研究者によるご講演などがありましたら、国際局としても広く周知したいと思っております。ご一報ください。

（国際局長 富田 淳）

## 学術局

学術局の主たる業務は学会誌『書学書道史研究』を独立行政法人科学技術振興機構運営のJ-STAGEに登載することですが、昨年度から外部委託ができるようになったこともあり、一名減の鈴木晴彦、矢野千載、高橋佑太、尾川明徳各氏で対応することとなりました。

例年より一か月遅く2017年11月30日に刊行されました27号も、学会ホームページでお知らせいたしましたとおり、年度内の3月23日に登載いたしました。今号は左開きの横書き論文登載の初例となりましたが、J-STAGEセンターへの手続きのうえ、冊子体と同じページで表記することができました。

日本学術会議と東洋学・アジア研究連絡協議会に学会の新体制を連絡するとともに、日本学術協力財団・科学技術振興機構連携のデータベース「学会名鑑」の登録情報も更新しましたことを報告いたします。

ホームページ <https://gakukai.jst.go.jp/gakkai/>  
（学術局長 森岡 隆）

## 研究局

会則に研究局は「学会の研究活動の振興・発展に資する業務」とありますように、本学会員の研究活

動の振興・発展を支援しております。主として「研究促進助成金規程」・「研究促進助成金制度審査規程」に基づき運営しております。本年度（2018年度）「研究促進助成金制度」の詳細は、「研究促進助成金制度／2018年度募集要項」と「2018年度書学書道史学会「研究促進助成金制度」応募研究計画書」をホームページに掲載しておりますので、まづはご一読下さい。（本年度より西暦表記に改めましたのでご留意ください。）

本年度は「研究促進助成金」申請に係る説明会を開催いたしません。その代わりに「平成29年度研究促進助成金」申請に係る説明会の動画を再度アップロードいたしました。こちらにもご覧いただけますようお願いいたします。但しこの説明では、科学研究費の申請書に触れておりますが、現在、科学研究費の申請書の様式は変更されており、この説明内容と異なる場合がありますことを、予めご了承ください。

■研究期間：2018年度～2019年度

（2018年9月1日～2020年8月31日の二年間）

■研究促進助成金：一件につき30万円

（三件まで採択）

■申請受付期間：2018年6月1日（金）～6月

7日（木）

■申請方法：ホームページ掲載「2018年度書道史学会「研究促進助成金制度」応募研究計画書」(Word形式)をダウンロードし、受付期間内に下記問い合わせ先までEメール(添付ファイル)で申請して下さい。

■問い合わせ先：mat-syogaku@nynavi.jp

■問い合わせ方法：Eメールのみ(2018年度研究助成問い合わせ)と(記入)

下さい。

2014・2015(平成26・27)、2016・2017年度(平成28・29)に引き続き、2018・2019年度(平成30・31)の研究局は、河内利治局長、福田哲之・永由徳夫両副局長、権田瞬一・角田健一両幹事の五名で運営して参ります。研究局に関するご意見がございましたら、上記問い合わせ先までご連絡ください。

(研究局長 河内 利治)

**編集 集局**

今期の編集局は、菅野智明、高橋利郎、橋本貴朗の各理事と、増田知之、成田健太郎、柳田さやか各の各幹事が担当することになりました。前期に引き続き、学会誌の編集業務を中心に、鋭意努めてまいります。さて、学会事務局の移転に伴い、学会誌の投稿規定の改訂が必要でしたが、その作業を怠り、会員の皆様にはご迷惑をおかけいたしました。

お詫び申し上げます。学会誌の投稿先は、毎日学術フォーラム内の本学会事務局となりますので、この場を借りて訂正させていただきます。

(編集局長 菅野 智明)

**事 務 局**

このたび、事務局長として三期目を拝命しました。一期目は、なかなか無案内なことが多く、皆様にご迷惑をおかけしました。二期目は、途中で事務局の移転があり、あたふたしましたが、澤田理事長のご指示のもと、何とか尽力できました。しかしながら、一部、新事務局との連携がうまくいかない点もあり、皆様にご迷惑をおかけしました。紙面をお借りして、ここに謹んでお詫び申し上げます。

今期は、中村理事長のもと、引き続き、「忘己利他」の精神で職務を全うしたく思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局では会報も担当しています。前期、会報の企画・取材・編集の陣頭指揮を執られたのは、会報委員会委員長・小川副事務局長(※いずれも当時の役職)でした。今期、小川氏が理事に勇退されたこともあり、菅氏が会報委員会委員長・副事務局長としてご尽力いただけることになりました。中村理事長および各部と常に連携をとりながら、よりよい会報作りをしていきたいと思えます。

また、学会のホームページ担当も、事務局が担って

います。携帯電話やスマートフォンでもきれいに見られたいへん見やすく機能的です。会員各位においては、身近なところでも大いに活用いただけたらと思います。

最後になりましたが、即戦力として動いてくださるのが幹事です。実務をともなつた経験者として、金子・亀田・田村・野中・藤森の各位に、今期も残留いただけることになりました。特に、野中氏は会報等の版組をして、版下にまで作成してくださいます。

早速、新事務局の顔合わせおよび会報の編集会議を4月7日に新宿の某会議室で行いました。今期の計画を確認し、実ある会議となりました。

(事務局長 高城 弘一)

**新入会員紹介 事務局**

〈一般会員〉 久保田陽子(紫苑) 那珂湊高等学校

出頭 茂

中根 安治(海童) 岐阜女子大学

福代 茂 東方学会監査

山川 結加(萩蓮) 岐阜女子大学

山田 賢治(秀峯) 四日市市立楠小学校

〈学生会員〉 池田 さくら 筑波大学大学院

上山 恵里 岐阜女子大学大学院

門原 裕佳 筑波大学大学院

山崎 梨恵子 大東文化大学大学院

(五十音順)

※平成29年11月上旬〜平成30年4月に申請された方

## 平成30年度研究費本関係者採択一覽

## 事務局

本会会員の採択課題に限ったが、会員が分担研究者で、代表者が非会員である場合には、※を付して代表者を末尾に付記した。複数の会員が関わる同課題については、当該課題のもとに代表者と分担研究者とを併記した。なお、所属の後の数字は、平成30年度のみ補助金の配分額。計画額には※を付した。

基盤研究(A) 継続(平成26) 作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究 板倉聖哲(東京大学) ※代表 井手誠之輔(九州大学) 4,810千円

基盤研究(A) (平成28) 日本における「生き物供養」何でも供養」の連環的研究 基盤の構築 永由徳夫(群馬大学) ※代表 相田満(国文学研究資料館) 8,330千円

基盤研究(B) 継続(平成27) 海外敦煌書儀六朝尺牘文献の古代日本の受容実態の解明 小林比由代(信州大学) ※代表 西一夫(信州大学) 2,210千円

基盤研究(B) 継続(平成27) 年号勅文資料の研究 基盤の構築 近藤浩之(北海道大学) ※代表 水上雅晴(中央大学) 3,510千円

基盤研究(B) 継続(平成27) 南北朝～隋代における造像銘の調査及び史料集成とその総合的研究 宮崎洋一(広島文教女子大学) ※代表 佐藤智水(龍谷大学) 1,930千円

基盤研究(B) 継続(平成28) 東アジア美術における仏伝の表象 板倉聖哲(東京大学) ※代表 榎本泰生(京都大学) 3,900千円

基盤研究(B) (平成28) 隋唐「仏教社会」の多元的構造の解明と東アジア文化論の構築 氣賀澤保規(明治大学) 4,940千円

基盤研究(B) (平成28) 運動の「ぎこちなさ」を要因とする書字困難児に対する早期支援プログラムの開発 齋木久美(茨城大学) ※代表 勝二博亮(茨城大学) 3,380千円

基盤研究(B) (平成28) 中国道教における聖地と巡礼に関する総合的調査と研究 土屋昌明(専修大学) 4,030千円

基盤研究(B) (平成29) 美術鑑賞学習のルーブリック評価と授業モデルの普及に関する実践的研究 萱のり子(東京学芸大学) ※代表 新開伸也(滋賀大学) 5,480千円

基盤研究(B) (平成29) 近代東アジアにおける「書壇」形成の地域比較研究 菅野智明(筑波大学) ※研究分担者 矢野千載(盛岡大学) 金貴粉(大阪経済法科大学) 高橋利郎(大東文化大学) 高橋佑太(安田女子大学) 3,770千円

基盤研究(B) 新規 中国語における文法的意味の史的変遷とその要因についての総合的研究 大西克也(東京大学) 3,900千円

基盤研究(C) 継続(平成27) 学習者の実態調査に基づく左利き者に有用な書写教材及び授業開発に関する基礎的研究 小林比由代(信州大学) 910千円

基盤研究(C) 継続(平成27) 『和漢朗詠集』諸本の集成と研究 山本まり子(お茶の水女子大学) 1,660千円

基盤研究(C) (平成28) 日中韓における書教育に関わる教員養成モデルの構築―現状の比較・分析を通して― 加藤泰弘(東京学芸大学) 650千円

基盤研究(C) (平成28) 植民地期朝鮮の職業書家における「書」認識に関する研究 金貴粉(大阪経済法科大学) 630千円

基盤研究(C) (平成28) 読み書き指導に関する幼・小連携カリキュラムの開発 齋木久美(茨城大学) 1,720千円

基盤研究(C) (平成28) 日本における「書く」こと教育改善のための調査研究―ドイッの入門期文字言語獲得の知略― 鈴木慶子(長崎大学) 650千円

基盤研究(C) (平成28) 『三國志演義』二十四巻系後期諸本の研究 中川論(大東文化大学) 650千円

基盤研究(C) (平成28) 中国中世石刻資料から見る水運と埋葬の連鎖 東賢司(愛媛大学) 1,660千円

基盤研究(C) (平成28) ICT教育推進のための小学校国語科書写における毛筆動画教材及び授業開発 樋口咲子(千葉大学) 360千円

基盤研究(C) (平成28) 筆順変遷過程の資料化を図るための基礎的研究 松本仁志(広島大学) 910千円

基盤研究(C) (平成28) 日本語表記に使われる文字の由来、特質等を理解させるための視聴覚教材の開発 I 和田圭壮(福岡教育大学) ※研究分担者 鈴木慶子(長崎大学) 山元宣宏(宮崎大学) 1,040千円

基盤研究(C) (平成29) 北朝隋唐碑における鐫刻実態に関する基礎的研究 澤田雅弘(大東文化大学) 1,060千円

基盤研究(C) (平成29) 中・近世書論を基盤とする「日本書論史」の構築 永由徳夫(群馬大学) 910千円

基盤研究(C) (平成29) 『看韻篇』を中心とした秦漢簡牘文字に関する基礎的研究 福田哲之(島根大学) 660千円

基盤研究(C) (平成29) 清朝皇帝による「書文化政策」の実態と清代書文化の変容 増田知之(安田女子大学) 4,300千円

基盤研究(C) 新規 日本の篆刻に関する実証的研究―歴史・技法・鑑賞の研究から科学的解明を目指して― 神野雄二(熊本大学) 1,950千円

若手研究 新規 奈良朝後期写経にみる書体の規範性と国家象徴的機能に関する研究 川上貴子(九州大学) 2,210千円

若手研究 新規 書論からみた清代書法教育の基礎的研究 高橋佑太(安田女子大学) 1,710千円

若手研究(B) (平成29) 日中比較による中国写字書法教育史の基礎的研究―中華人民共和國建国を起点として― 草津祐介(都留文科大学) 620千円

談話室

アイディア書道(さまざまな創作)の試み

石丸 真弥

私が初めて勤務した定時制の高校では、様々な事情から古典の臨書や創作を2時間続けて出来ない場合が少なからずある。とにかく「書道は楽しい」と飽きることなく取り組む姿勢や「やる気」を引き出す必要があったため、色々なアイデア書道を考案するに至った。ただし、限られた予算の中で、特に百円ショップの品を代用・応用することで低コストに抑え、多様なアイデア書道を実践してきた。具体例を挙げれば、書稿をもとに籠字をとって削る「レインボーペーパーシートde書」や簀子を利用した木簡作品などがある。これらは自由で幅広い表現が可能だけに、俗な書になりがちな点は今後の課題としたい。

書道を身近なものとし込むアイデアを生み続け、書への永続的な愛好心を育めるように今後も尽力する次第である。

現代人の毛筆文化研究

岩坪 充雄

前近代の文字事情について、現代人が見過ごしている事は案外多い。それは活

字世界に生を受けたために活字中心の思考で事物を見てしまう現代人だからだろうが、逆に前近代人たちは間違いなく全員毛筆文字世界の住人である。この日用文字の違いは、読む、書く、あるいは著述やその出版といった知的活動の価値観にも影響が出る。活字と毛筆文字に時代差の断絶を感じるものだ。近代の知的成果は活字に拠ったが、現代では、必ずしも活字に拠らず、前近代の毛筆の字姿のままで画像共有が容易にできる時代となった。自ずと現代の研究で前近代資料を扱うならば毛筆文字、つまり「書」が分かることが必須となる。毛筆文字理解を前提とする現代の研究スタイルがあつてよいのだろうかと思う。

手作りかるた

佐藤 典子

昨年、展覧会廻りをする中、感動する展覧会をいくつも見た。その中の一つが日本大学文学部で開催された「王朝の物語展」である。竹取物語、大和物語、伊勢物語かるた等、素晴らしかった。今、高等学校で書道の授業を担当しているが、現場でこのような展覧会の内容を活かしたいと考えている。そこで今年一月、漢字仮名交じり作品の一つとして、授業の中で手作りかるたを作った。文化の香りのする中遊ばせてみると、「このかるた誰の字？」等の声

もあがつておもしろかった。アクティブラーニングのきっかけぐらいになるであろうか。その先で変体仮名にも触れ、仮名の流れを少しでも感じてもらえる機会を作る。一つの意味を考えるステップになればと願っている。私自身、恩師 今関脩竹先生に感謝し、大好きな光悦に想いを馳せる。

能舞台の上で書美の深さを想う

林 淳

4月17日、広島県の厳島神社で能楽「高砂」の太鼓を打たせて頂きました。翁に始まり終演までの2時間30分。周囲の穏やかな海面に、舞台上で繰り広げられる芯のある舞やメリハリの利いた囃子が美しく映え、正座の痛みも幾分和らぎました。

能楽は無形文化財ですが、書と共通する美があるとよく感じます。定まった型の連続で構成され、奇を衒った点がなくとも、名人の表現には必ず漂うある種の「面白さ」。特に明治時代の書の中には、それと共通する「面白さ」を感じ取れる作品がある気がするのです。

しかしその「面白さ」は万人が実感ができるものなのか、そしてどこまで論として展開できるものなのか、「伝わる人だけに伝わればよい」としないために、私の果たせる役割を沈吟する今日この頃です。

編集集後記

◆本誌編集委員(二期目)を仰せつかりまして誠にありがとうございます。微力ながら、務めさせて頂きましたので、何なりとお申しつけ下さい。宜しくお願致します。(田村南海子)

◆平成も残すと二〇二一年を切りました。いろいろなことが変わっていく中ですが、私も柔軟に対応できればと思います。引き続きよろしくお願致します。(野中直之)

◆今年度から新たに「実用書法」の授業を担当させて頂いております。インターネットで実用書と検索すると関連書籍が思いのほか多く、また、カルチャーセンター、通信講座での需要の高さに驚きました。書道人口の減少を耳にしますが、実用書こそ書に親しむための第一歩でしょう。そのため何ができるのか、そういつたことについても学生と共に考えていきたいと思っています。(藤森大雅)

◆桜から新緑へ、木々に力のみなざる季節になりました。新しい会報委員会も若手の牽引で力強く始動しております。会員の皆様の筆硯が益々潤いますよう、委員会では力を合わせて本紙の充実に努めて参ります。何卒よろしくお願いたします。(萱のり子)